

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
麻生建築&デザイン専門学校		平成9年11月26日		竹口 伸一郎		〒 812-0016 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	建築CAD科		平成11(1999)年度	—	平成25(2013)年度			
学科の目的		CAD利用技術者1級試験の取得などを旨しながら、2次元CADに加え、建物のプレゼンテーションなどに使用される3次元CAD、CG制作などを体得する。また、建築の計画、法規、構造、施工などを総合的に学習し、建築分野の知識を持ったCAD利用技術者を育成すると共に卒業後の2級建築士を目指す。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		取得可能な検定:1級建築士受験資格(卒業時)、2級建築施工管理技術検定(第一次検定)、宅地建物取引士、建築CAD検定、福祉住環境コーディネーター。 進路変更、学修意欲低下により、中退率6.3%となっている。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	— 単位時間 62 単位	— 単位時間 74 単位	— 単位時間 94 単位	— 単位時間 11 単位	— 単位時間 0 単位	— 単位時間 0 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
160人	105人	1人		1%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		: 57人						
	■就職希望者数(D)		: 50人						
	■就職者数(E)		: 50人						
	■地元就職者数(F)		: 32人						
	■就職率(E/D)		: 100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		: 64%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		: 88%						
■進学者数		: 5人							
■その他		・アルバイト 1名 ・就職斡旋希望せず 1名 担任と就職担当が連携し、面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導等を学内で実施。 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) 株式会社九電工(施工管理) 建設業							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無						
※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://asojuku.ac.jp/aadc/cad/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		— 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		— 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		— 単位時間							
うち必修授業時数		— 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		— 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		— 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		— 単位時間							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数		179 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		4 単位							
うち必修授業時数		44 単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		4 単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人				
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人				
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人				
	計				3人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためおアンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	③
田邊 聡	JAPANO合同会社 代表社員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	③
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	②
照井 善明	特定非営利活動法人 FUKUOKAデザインリーグ 専務理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	①
今泉 清太	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
笠 真由美	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
吉田 麻美	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
古田 洋仁	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
永田 将大	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月1日 15:40～17:00

第2回 令和4年12月9日 15:40～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

3Dプリンターを導入し、立体空間を捉える力の向上や構造検討に活用してはどうかとのご意見をいただき、導入に向けてシラバスの検討や設備導入の予算化など検討を進めている。単位制導入にあたり、建築士の基礎となる学習の定着と、学科特性の強化について期待する声をあたらめていただいた。今後さらにBIMスキルの向上に注力し、業界で主流となるツールの動向に合わせた学習プログラムを研究し、見直しとアップデートを重ねていく。現段階では卒業時の技術レベルは十分であるとのことだが、今後も短時間で作成する技術の習熟、実務スピードに対応できるようスキルアップを図っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等との人材ニーズに関するヒアリングに基づき、建築人材として必要な基本的な知識技術を習得し、かつCADの先端技術を身につけBIMのワークフローに適応した設計手法やデータ作成をできる知識・能力を養成する。建築士となる学習に加え設計デザイン表現としてのCAD・BIM活用について、演習を通して必要な創造力や発想力を養っていくことを目的とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 1年次のBIM Iの授業で概要理解とソフトの基本操作、モデル入力の着実な定着を目指し、2年次の卒業制作の授業では学びの集大成として定期的にプレゼンテーションを行い、コンセプトメイキングや模型の見せ方、レイアウトなどを指導してきている事を踏まえ、実務者目線でのアドバイスを通して学生の技術・発想力・表現力を育てていく。現地調査を徹底し、仮想での勉強の枠を超え、よりリアルで効果的な内容のプレゼンテーションができるよう指導していく。中間及び期末に企業担当者と本校教員が共同で講習会を実施し成績評価を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作 I	これまでの集大成として卒業制作の作品づくりに取り組む。また、作品のプレゼンを通して説明能力を高める。	ナガハマデザインスタジオ
卒業制作 II	総まとめとして、卒業設計、卒業制作、卒業研究などを行う。	ナガハマデザインスタジオ
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 「教職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。 教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： Building Together Japan 2022	連携企業等： グラフィソフトジャパン株式会社	
期間： 令和4年10月20日	対象： 専任教員	
内容： Archicad26デモンストレーション、Archicadユーザーによる講演、Graphisoftからの最新情報など		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： ブレディッドラーニング	連携企業等： デジタルハリウッド株式会社	
期間： 令和4年8月23日	対象： 専任教員	
内容： ICTを活用した教員の新たな役割、学修者本位の教育の仕組みについて学ぶ。		
研修名： 感情のコントロール	連携企業等： 有限会社ヒューマン・ギルド	
期間： 令和4年8月26日	対象： 専任教員	
内容： 感情と密接な関係があるアドラー心理学をベースに感情とのつきあい方を学ぶ。 講義＋グループワーク		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： ChatGPT 入門ウェビナー	連携企業等： 一般社団法人コンピュータ教育振興協会	
期間： 令和5年7月28日	対象： 専任教員	
内容： AIの基本知識の導入から始まり、ChatGPTの具体的な活用術をリアルタイムで実演。画面越しに疑似体験をすることで、ビジネスへの活用に活かす。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： セルフマネジメント	連携企業等： オフィスシックスエイト	
期間： 令和5年8月22日	対象： 専任教員	
内容： 困難な状況においても、平常心を保って適切な対応ができるようになるために、感情に感わされることなく、判断し対応する方法を学ぶ。		
研修名： ルーブリック評価と能動的な継続学習	連携企業等： デジタルハリウッド株式会社	
期間： 令和5年9月8日	対象： 専任教員	
内容： 学習成果の可視化に有効な評価指標「ルーブリック」の授業タイプ別の作成方法、個別対応ツールとしての「新り返りシート」の活用方法について学ぶ。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員から社会人としてどの業界にも通用する人間力を身につけてほしいとのご意見をいただき、コンペ等の外部イベントを広く周知し、学校全体のスキルアップを図った。新しい知識や技術に関心を持ち、チャレンジできる人材、リーダーシップを発揮できる人材育成のためコンペやイベント参加に主体的に臨む機会を設けた。単位制に移行するこの機に、学生の個々に合わせた学習環境と再履修の機会を提供できるカリキュラムを編成しシラバスを作成した。今後は適宜、単位制カリキュラムの見直しと、履修を体系的に配置できているかの再確認を進めていく。建築士の基礎となる学習の定着と「学科特色を強化する」ため、より一層企業ニーズが高まるBIMスキルの向上に重点をおいた学習プログラムを編成し、見直しとアップデートを重ねている。

人間力の育成あるいは向上につながる学生指導やクラス運営など、新任教員に対しては研修を行い教育の質の向上を図った。あらかじめ業務知識を備えることでゆとりをもって取り組めるよう学内外の研修へ積極的に参加を促しており、今後も推進を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中村 直子	建築工学科 在校生 保護者等	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	保護者等
伊藤 宏次朗	建築工学科 卒業生	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生
市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 民生委員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	地域住民
元木 昭平	ウームデザインオフィス 代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	有識者
井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	有識者
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	有識者
宮本 清美	株式会社エイジェック 課員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田邊 聡	JAPANO合同会社 代表社員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
福田 哲也	合同会社 if architects 代表社員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
松田 淳司	株式会社ゼネラルアサヒ コミュニケーションデ ザイン本部 本社制作部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aadc/2023/hyoka.pdf>

公表時期: 令和5年9月29日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、学生寮、就職サポート、留学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://asojuku.ac.jp/aadc/>

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築CAD科) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		建築設計製図Ⅰ	木造住宅の建築計画・建築製図を学ぶ。実際の建築物を常にイメージし作図に取り組み、図面の設計方法、各部名称、寸法、納まりについて学ぶ。AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1前	60	4	○			○		○		
2	○		建築設計製図Ⅱ	鉄筋コンクリート構造・鉄骨造の建築計画・建築製図を学ぶ。実際の建築物を常にイメージし作図に取り組み、図面の設計方法、各部名称、寸法、納まりについて学ぶ。AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1後	60	4	○			○		○		
3	○		建築計画Ⅰ	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
4	○		建築計画Ⅱ	公共建築のうち教育施設(幼稚園、小中学校等)や外部空間、自然環境と建築の関係等を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
5	○		建築計画Ⅲ	建築として主に公共建築について学ぶ。特に図書館、美術館、コミュニティセンター等の社会教育施設や少子高齢化社会に向けて医療施設、福祉施設について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
6	○		建築計画Ⅳ	建築として主に商業施設の計画について学ぶ。特に事務所ビル、劇場・音楽ホール、百貨店・スーパーマーケット、駐車場等について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
7	○		建築環境工学	建築環境工学の基礎的な知識として熱、光、空気、音の分野について学習する。	1後	30	2	○			○		○		
8	○		建築設備	各種建物の特徴と建築設備の関わり、空気調和、給排水、衛生、電気等の各種建築設備における基本的な事項と考え方について学習する。	1前	30	2	○			○		○		
9	○		建築構造力学Ⅰ	建築力学の基礎概念である「力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」「静定構造物の反力・応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
10	○		建築構造力学Ⅱ	「静定構造物の応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
11		○	建築構造力学Ⅲ	不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		

(工業専門課程 建築CAD科) 令和5年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			建築一般構造Ⅰ	木造建築物の構造について、必要な部材名及びその役割を理解し基礎知識を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
13	○			建築一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート構造の基本的な構造を理解し、その構造形式の特徴について学ぶ。鉄骨構造の構造形式などの特徴や部材の設計方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
14	○			建築材料	建築材料のうち、構造材料である木材、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
15	○			建築施工Ⅰ	請負契約から工事計画・工事管理までを学習する。また、各種工事についての知識を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
16	○			建築施工Ⅱ	鉄骨造、各種仕上げ工事などに関する要点を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
17	○			建築法規Ⅰ	基本となる建築基準法を中心に学習し建築物の設計等を行う際の最低限の基準、主に単体規定を学習する。	1前	30	2	○			○		○		
18	○			建築法規Ⅱ	都市計画の観点から建築物について学ぶ。主に集団規定を学習する。	1後	30	2	○			○		○		
19	○			建築法規Ⅲ	各部の高さや防火規定など、各規制や緩和を知り、より応用力を身につける。更に卒業研究でのデザインに応用できるよう学習する。	1後	30	2	○			○		○		
20	○			BIM演習Ⅰ	BIM概要の理解、CADソフトの基本操作を身に付ける。またモデル入力について学ぶ。	1前	60	4		○		○			○	○
21		○		BIM演習Ⅱ	BIMで作成したモデルを図面化し、出力までの応用操作について学ぶ。	1後	60	4		○		○			○	
22		○		BIM演習Ⅲ	BIM演習Ⅰ・Ⅱでの基礎を踏まえ、BIMを用いた作品づくりに取り組む。	2前	90	6		○		○			○	
23		○		BIM応用演習Ⅰ	チームによるプロジェクトを通してチームワーク機能の概念及び操作について学ぶ。	2前	60	4		○		○			○	
24		○		BIM応用演習Ⅱ	高度なモデリング手法およびデータ解析について学ぶ。	2後	60	4		○		○			○	

(工業専門課程 建築CAD科) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
25	○		CAD演習	建築設計の基本的な考え方について学ぶ。JW-CADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	2前	30	2	○			○		○		
26	○		建築図学Ⅰ	手描きによる建築物のスケッチ＝建築パースの描き方や表現方法を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
27	○		建築図学Ⅱ	手描きによるパース技法の応用を学び、スキルを身に付ける。	1後	30	2	○			○			○	
28	○		CG演習Ⅰ	IllustratorとPhotoshopの基本操作を習得しPhotoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	1前	30	2	○			○			○	
29	○		CG演習Ⅱ	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得しPhotoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	1後	30	2	○			○			○	
30	○		CG演習Ⅲ	CG演習Ⅰ・Ⅱで習得した技術を駆使しオリジナルプランを表現する応用技術の習得を目指す。	2前	30	2	○			○			○	
31	○		卒業制作Ⅰ	今までの授業を踏まえ、本校の集大成として卒業制作の作品づくりに取り組み、かつ作品のプレゼン能力を養う。	2前	30	1				○	○		○	
32	○		卒業制作Ⅱ	卒業制作Ⅰの制作物のブラッシュアップを行い作品の完成度を高める。	2後	120	4				○	○		○	
33	○		ビジネスマナーⅠ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(立ち居振る舞い・敬語・ビジネス文書)	2前	30	2	○			○		○		
34	○		ビジネスマナーⅡ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(交際業務・来客対応・電話対応)	2後	30	2	○			○		○		
35	○		就職実務Ⅰ	多様な働き方や求められる人材について理解し、働くことについて考える。社会で求められる人材像について理解しながら就職活動の基礎知識を学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
36	○		就職実務Ⅱ	業界の研究、職業理解を深め、自己分析を進める。テキストに沿って就職活動の準備を進め、履歴書等の就活ツールの作成する。	1後	15	1	○			○		○		
37	○		就職実務Ⅲ	就職試験対策としての具体的な活動準備を行う。自己PRの整理、履歴書・作品集等の整備、就活マナーなど各々個別の準備を行う。	2前	30	1				○	○		○	

(工業専門課程 建築CAD科) 令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		就職実務Ⅳ	入社した後も困らない社会人になる上でのスキルを身につける。社会人として必要なビジネスマナーについて復習する。	2後	30	1			○	○		○		
		○		GCB I	グローバルシティズンの育成をめざし感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○		○		
		○		GCB II	グローバルシティズンの育成をめざしビジョンと志をもった人材を養成する。	1後	15	1	○			○		○		
		○		建築士対策(製図Ⅰ)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程を理解する。	2前	60	4		○		○			○	
		○		建築士対策(製図Ⅱ)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程を理解する。	2後	60	4		○		○			○	
		○		建築士対策(計画)	二級建築士の学科試験の学科Ⅰ(計画)を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
		○		建築士対策(法規)	二級建築士の学科試験の学科Ⅱ(法規)を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
		○		建築士対策(構造)	二級建築士の学科試験の学科Ⅲ(構造)を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
		○		建築士対策(施工)	二級建築士の学科試験の学科Ⅳ(施工)を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
		○		CAD資格対策	CAD利用技術者試験1級対策	2前	30	2		○		○			○	
		○		検定対策ゼミⅠ	各種検定対策授業の実施	2前	60	4	○			○			○	
		○		検定対策ゼミⅡ	各種検定対策授業の実施	2後	30	2	○			○			○	
		○		設計競技ゼミⅠ	設計競技へ出展を目標とし、設計手法の習得を目指す。課題文の読み込み・分析、コンセプト設定、エスキースを学んでいく。	1後	60	2			○	○			○	

(工業専門課程 建築CAD科) 令和5年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
51		○		設計競技ゼミⅡ	設計競技へ出展を目標とし、表現手法の習得を目指す。図面作成およびプレゼンボードの作成を学んでいく。	2後	60	2			○	○		○		
52		○		BIM専攻ⅠA	ビルディングインフォメーションモデリング(BIM)についての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上を図る。	1前	15	1		○		○		○		
53		○		BIM専攻ⅠB	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	1後	15	1		○		○		○		
54		○		BIM専攻ⅡA	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上を図る。	2前	15	1		○		○		○		
55		○		BIM専攻ⅡB	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	2後	15	1		○		○		○		
56			○	数学ゼミA	専門教科で必要とされる力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	1前	15	1	○			○		○		
57			○	数学ゼミB	専門教科で必要とされる力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	1後	15	1	○			○		○		
58		○		二級建築士試験学科Ⅰ(建築計画)	2級建築士学科試験、学科Ⅰで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題の正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○		○		
59		○		二級建築士試験学科Ⅱ(建築法規)	2級建築士学科試験、学科Ⅱで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題の正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○		○		
60		○		二級建築士試験学科Ⅲ(建築構造)	2級建築士学科試験、学科Ⅲで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題の正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○		○		
61		○		二級建築士試験学科Ⅳ(建築施工)	2級建築士学科試験、学科Ⅳで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題に正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○		○		
62		○		二級建築士試験学科総合対策	2級建築士「学科試験」出題範囲、計画・法規・構造・施工の総合演習問題に取り組み、正解できる力をつける。	2前	150	10		○		○		○		
63		○		二級建築士試験製図総合対策	2級建築士「製図試験」の模擬問題へ取り組む。適切なエスキス、規定時間内の作図、設計趣旨の文書化、正確な面積計算の各方法を身につける。	2後	300	20		○		○		○		

(工業専門課程 建築CAD科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
64	○		CAD演習 応用	CADによる建築設計についての基本操作を踏まえ、CADソフトの特徴を活かした効率的な作図能力を身につけ、より実務に近い詳細図などの作成を行う。	2後	60	4	○			○		○		
65	○		BIM演習 応用	意匠設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を習得する。BIM設計の理解と操作技術の向上を図り、より実務に近いモデリングの作成を行う。	2後	60	4	○			○		○		
合計					65	科目		179 単位 (2850単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から次の各号に定める単位を修得すること。 卒業要件： (1) 1年課程 30単位 (2) 2年課程 62単位 (3) 3年課程 90単位		1学年の学期区分	2期
履修方法： ①授業科目は、必修科目、選択科目および自由科目とする。 ②必修科目の単位は必ず修得しなければならない。 ③授業科目は、定められた年次にそれぞれ履修しなければならない。 ④指定された履修年次に単位を修得できなかった授業科目は、原則として、次の学期または学年に再履修しなければならない。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。